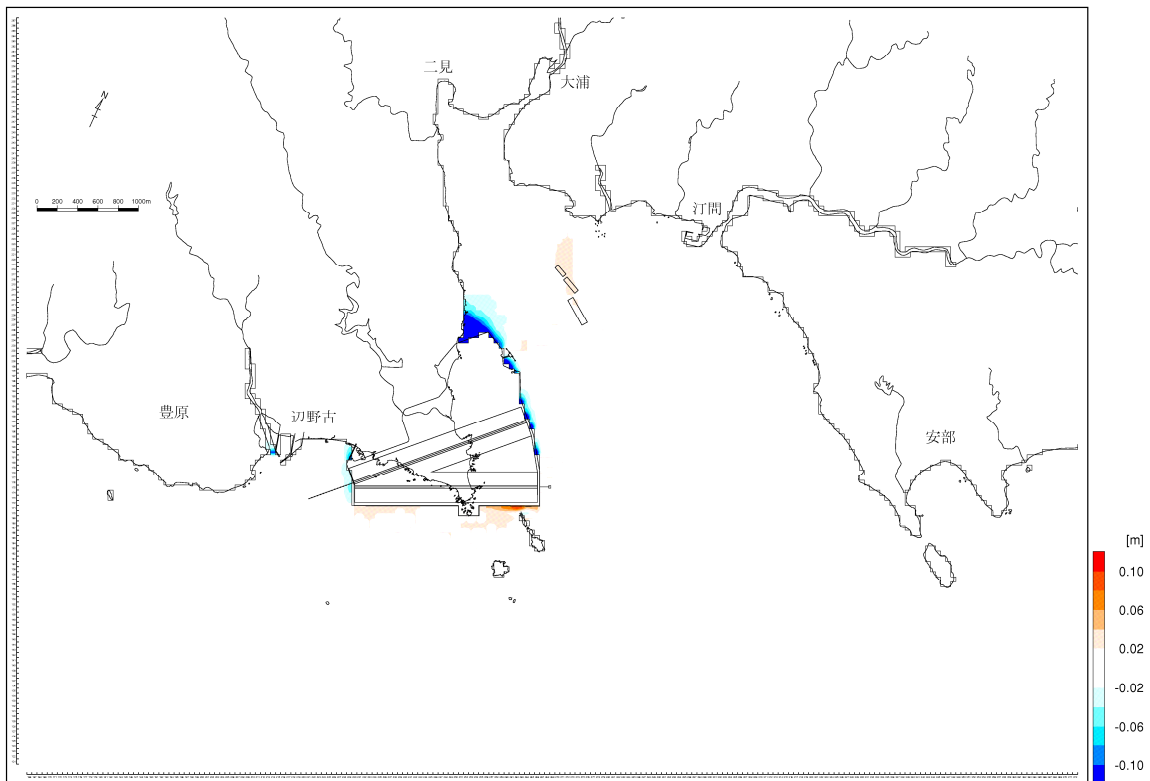


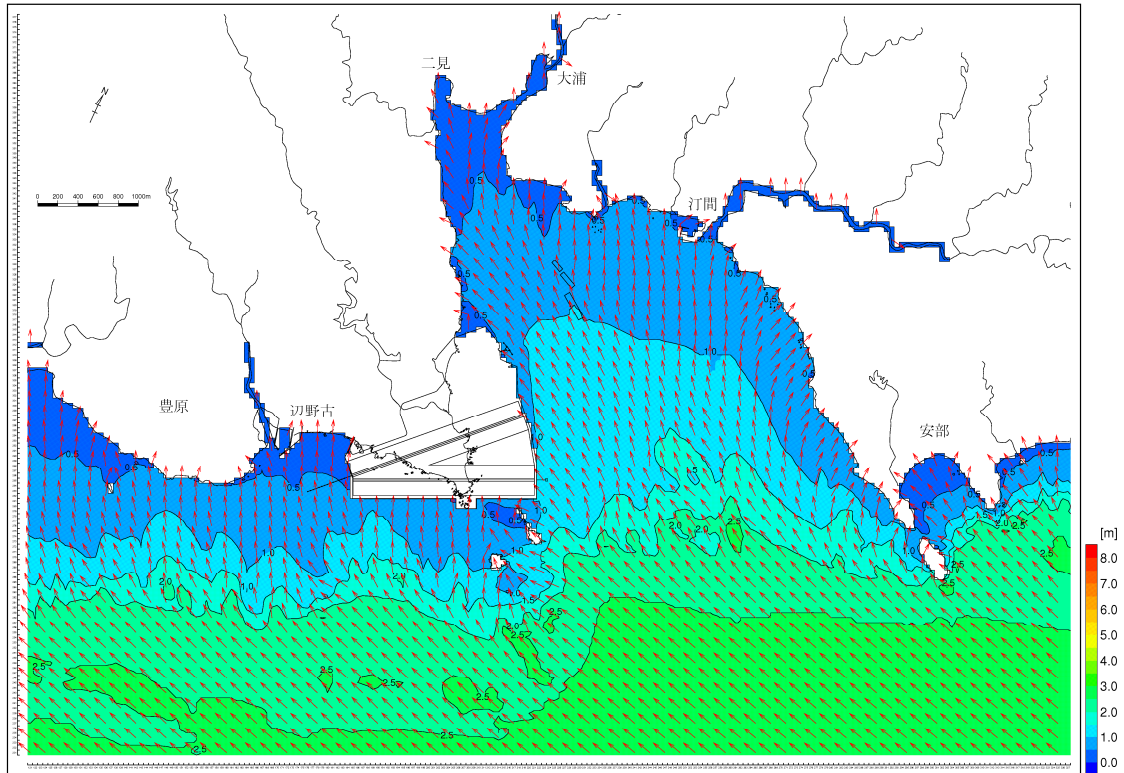
(施設等の存在時)

図-6.9.2.3.50 現況との波高の差異 (波浪条件：夏季の代表波浪，潮位条件：HWL)



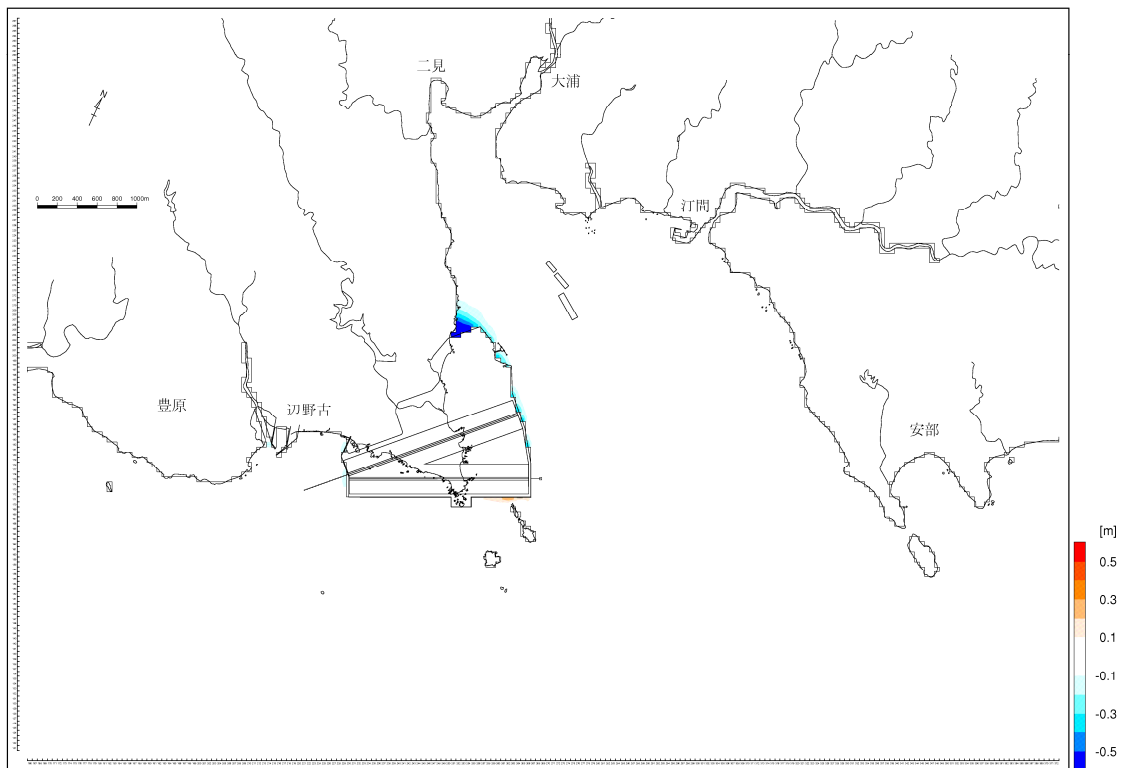
(施設等の存在時)

図-6.9.2.3.51 現況との波高の差異 (波浪条件：冬季の代表波浪，潮位条件：HWL)



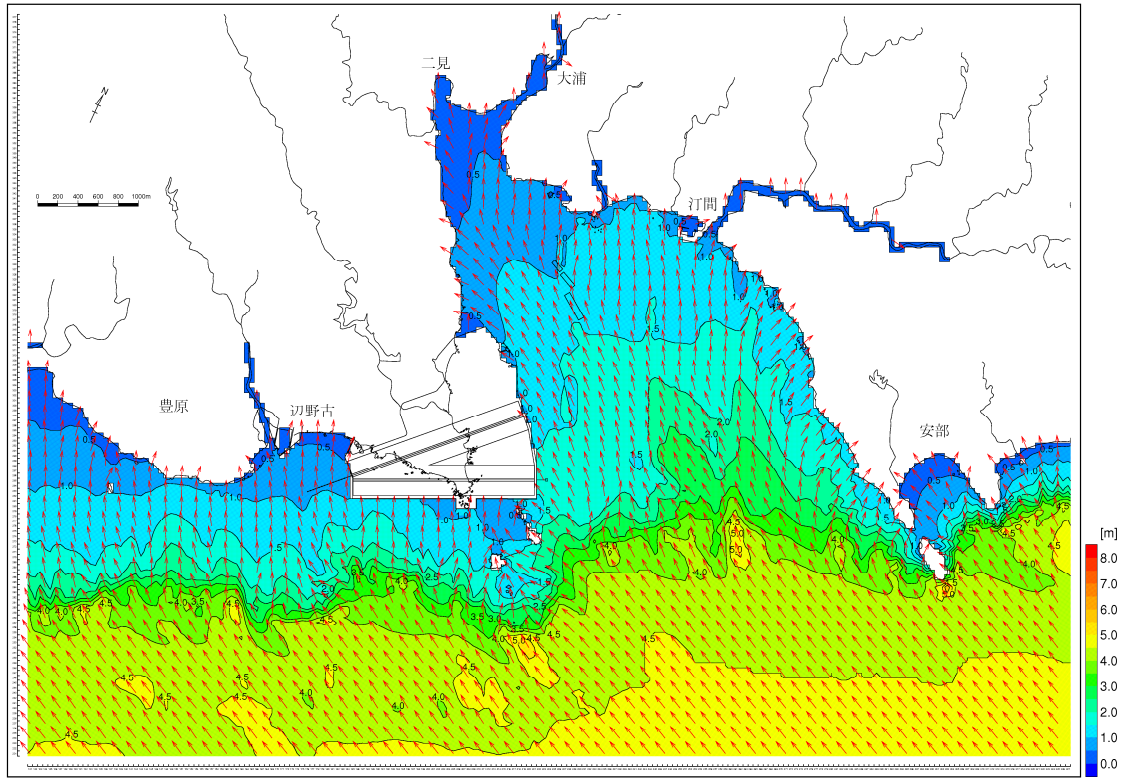
(施設等の存在時)

図-6.9.2.3.52 波高分布 (波浪条件：高波浪，潮位条件：HWL)



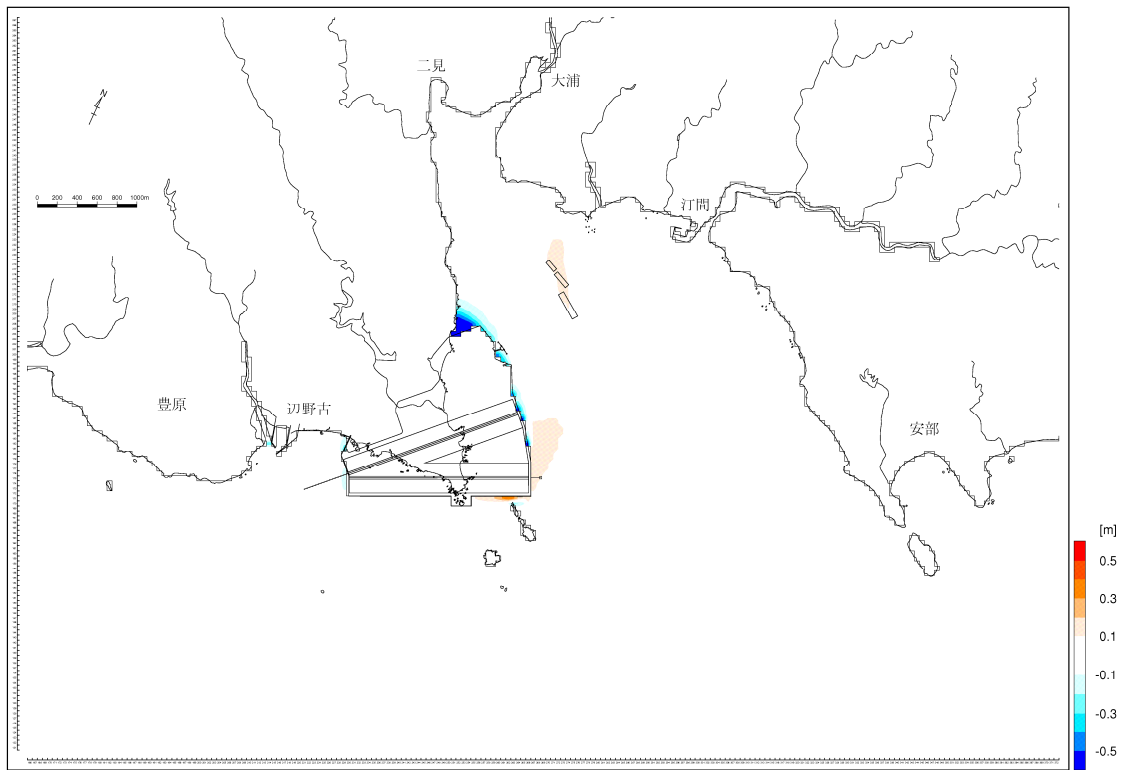
(施設等の存在時)

図-6.9.2.3.53 現況との波高の差異 (波浪条件：高波浪，潮位条件：HWL)



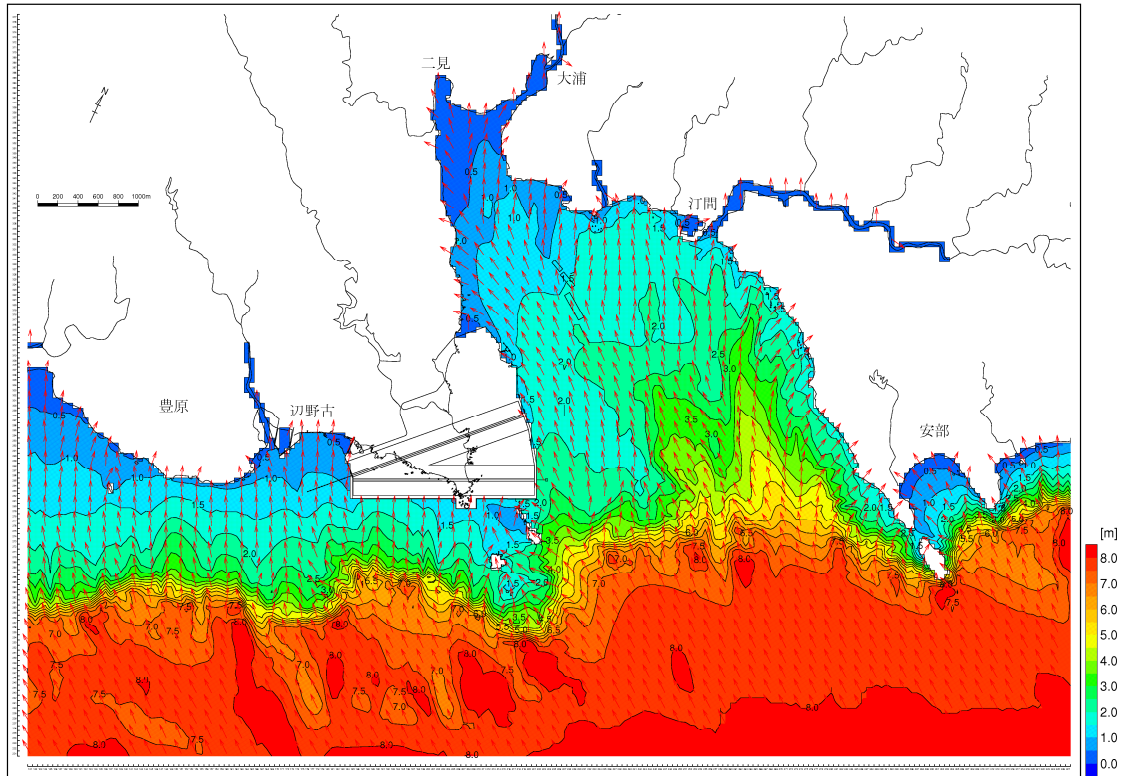
(施設等の存在時)

図-6.9.2.3.54 波高分布 (波浪条件：年最大波浪，潮位条件：HWL)



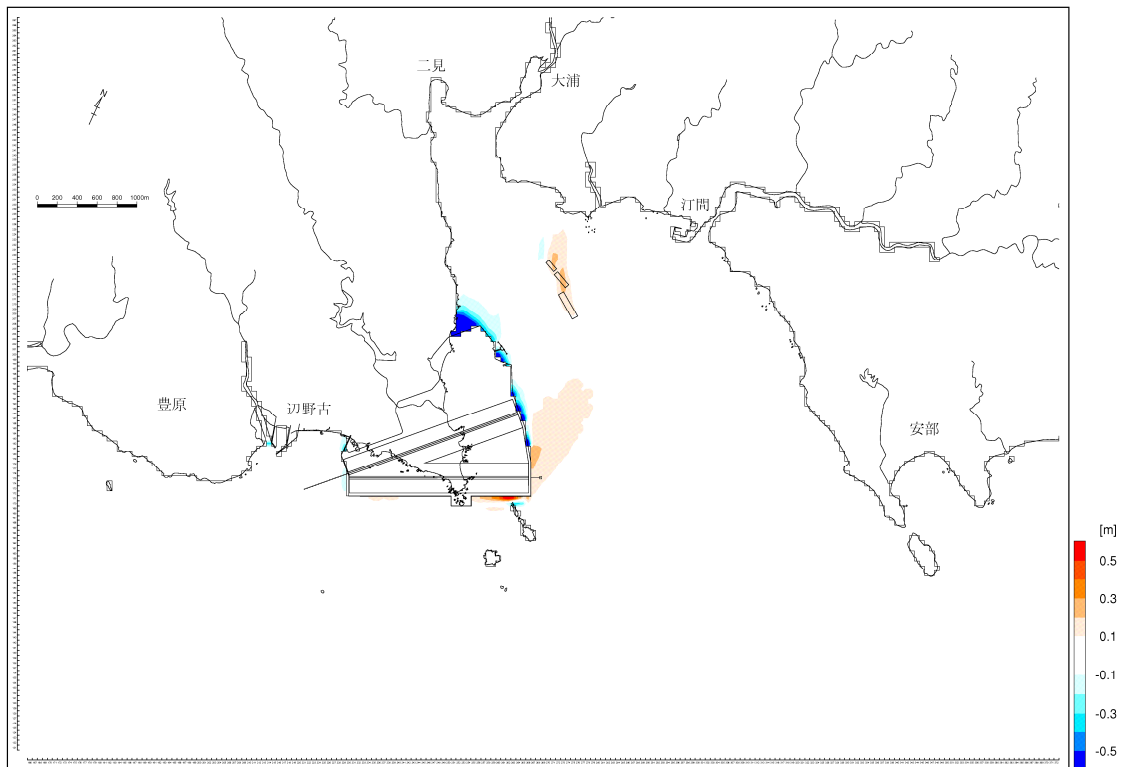
(施設等の存在時)

図-6.9.2.3.55 現況との波高の差異 (波浪条件：年最大波浪，潮位条件：HWL)



(施設等の存在時)

図-6.9.2.3.56 波高分布 (波浪条件：異常波浪，潮位条件：HWL)



(施設等の存在時)

図-6.9.2.3.57 現況との波高の差異 (波浪条件：異常波浪，潮位条件：HWL)

(d) 辺野古地先水面作業ヤードの存在に伴う水象の変化

辺野古地先水面作業ヤードの存在に伴う水象変化を詳細に検討するため、辺野古川河口域周辺の流れの変化を代表層について図-6.9.2.3.58に、水温及び塩分の変化を代表層について図-6.9.2.3.59に示しました。

なお、代表層は第1層(海面下0~2m)とし、第2層より下層の海面下2m以深については変化傾向が第1層と同様であったため、資料編に示しました。

- ・ 辺野古地先水面作業ヤードの存在により、辺野古漁港近傍では流速ベクトル及び流速コンターが変化していますが、夏季及び冬季ともに流速変化は±1cm/s程度です。
- ・ 辺野古川河口域は元々流れが小さく、夏季及び冬季ともに±1cm/s以上の流速変化はみられません。一方、夏季及び冬季ともに河口域においては-2.0~-5.0の塩分変化がみられます。これは、辺野古地先水面作業ヤードの存在により、河川水の影響を受けやすい場所、受けにくくなる場所が現れるために生じたと考えられます。冬季の水温も同様の理由により最大-0.6℃変化しています。
- ・ 辺野古地先水面作業ヤードの前面海域においては、夏季及び冬季ともに代替施設本体の存在により流れが漁港に向かう方向に変化していますが、流速変化は±1cm/s未満です。そのため、水温・塩分コンターは漁港寄りに変化し、夏季は水温が低下し、冬季は水温が上昇する傾向にありますが、変化値は±0.5℃未満です。また、前面海域の塩分に大きな変化はみられません。

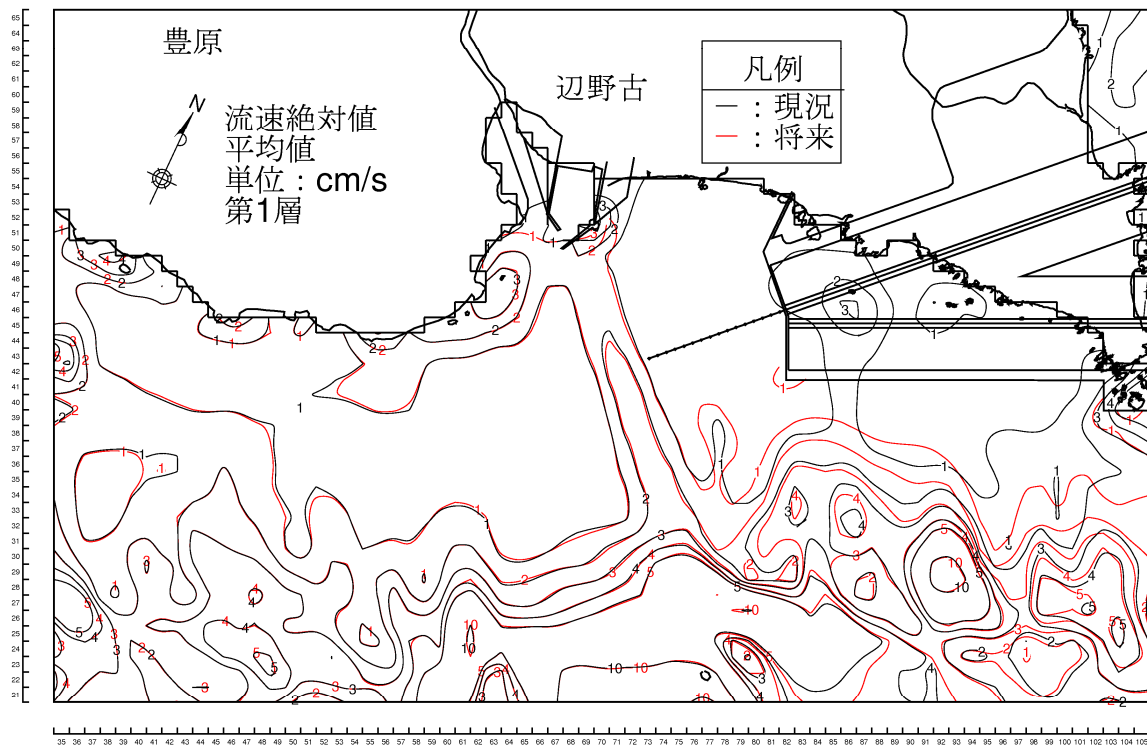
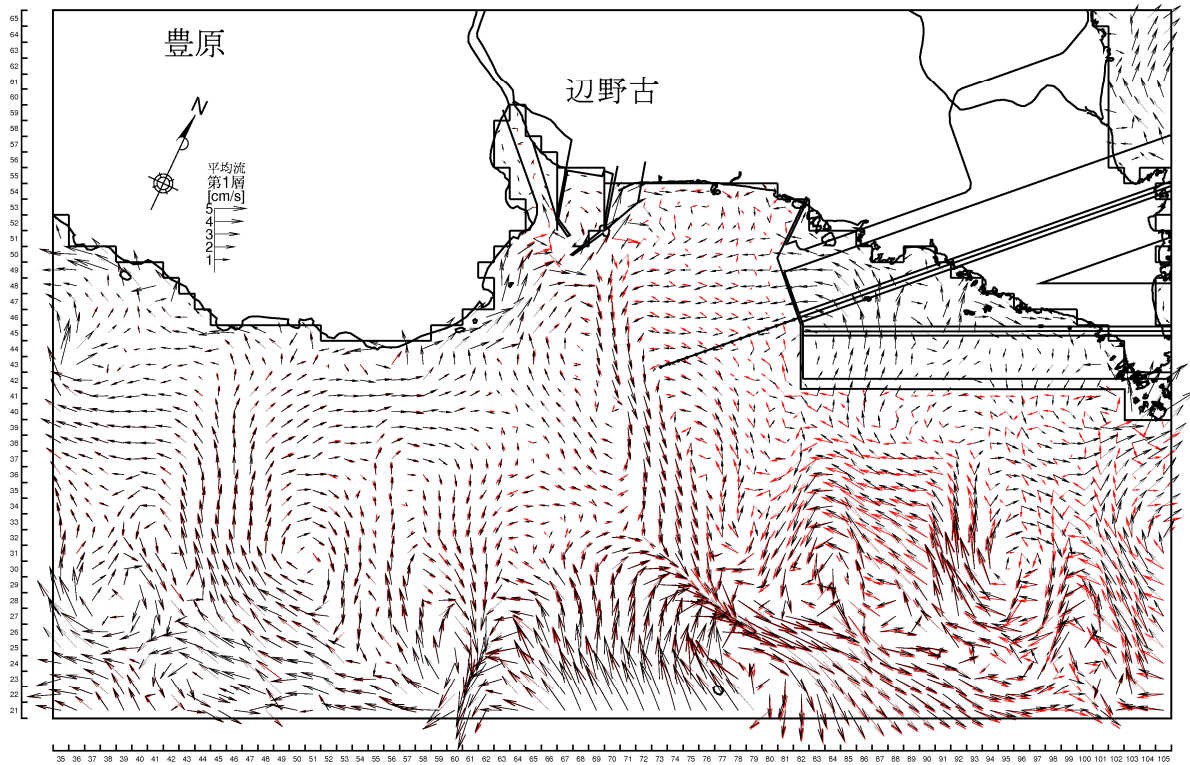


図-6.9.2.3.58(1) 辺野古川河口周辺における流れのベクトルと流速の変化
(夏季、恒流(平均流)、第1層[0~2m])

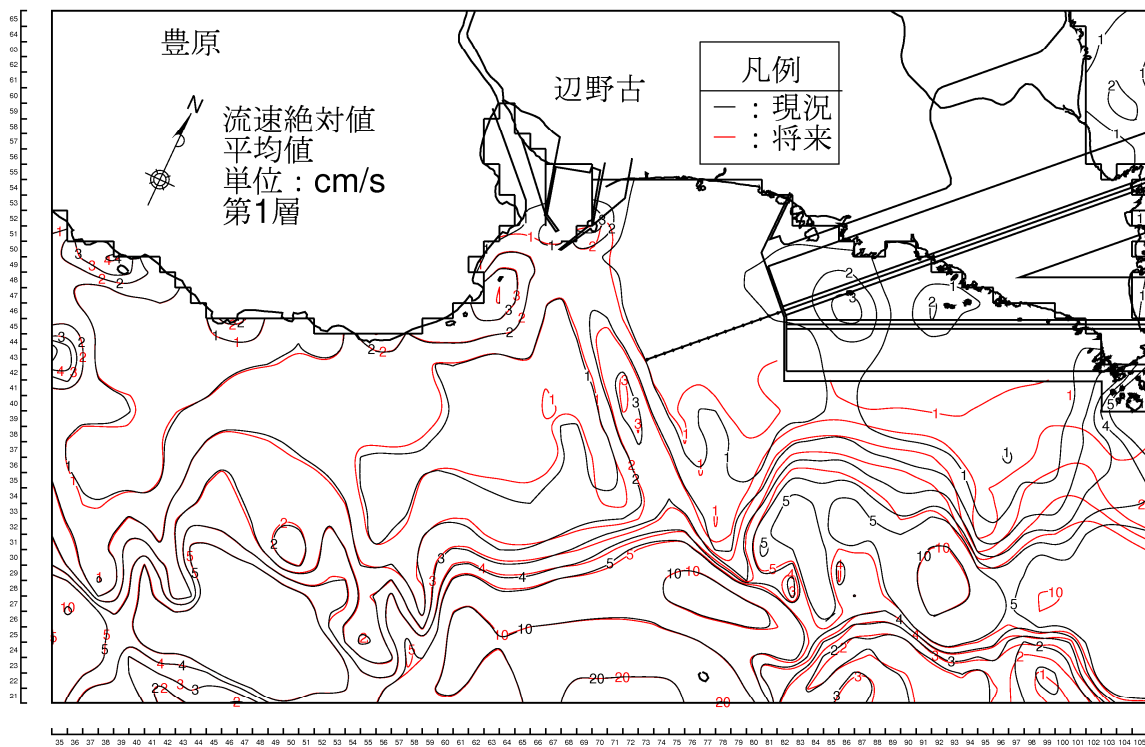
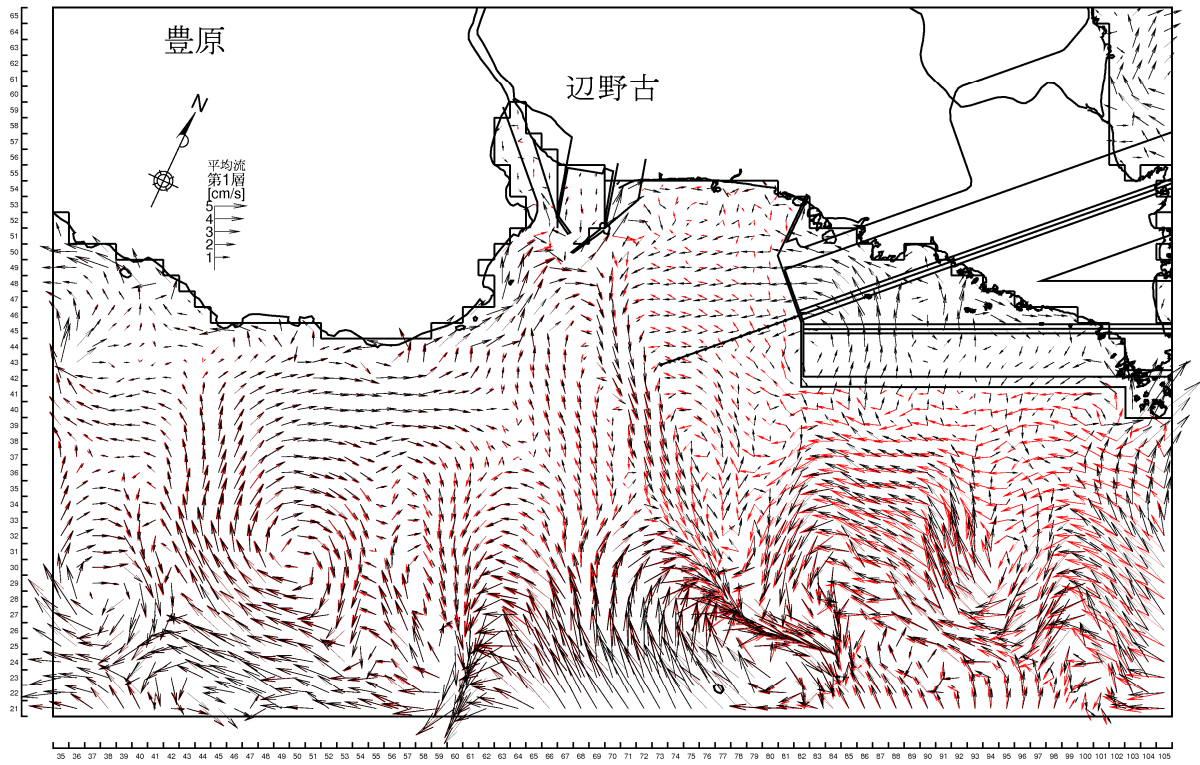


図-6.9.2.3.58(2) 辺野古川河口周辺における流れのベクトルと流速の変化
(冬季、恒流(平均流)、第1層[0~2m])

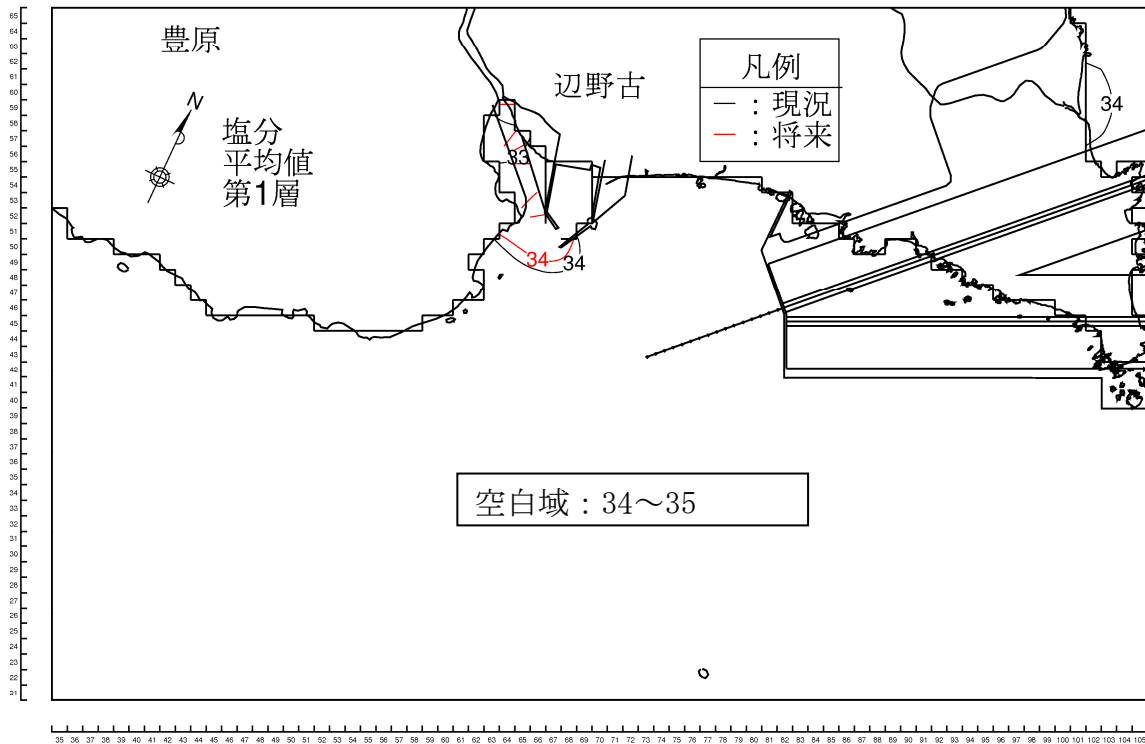
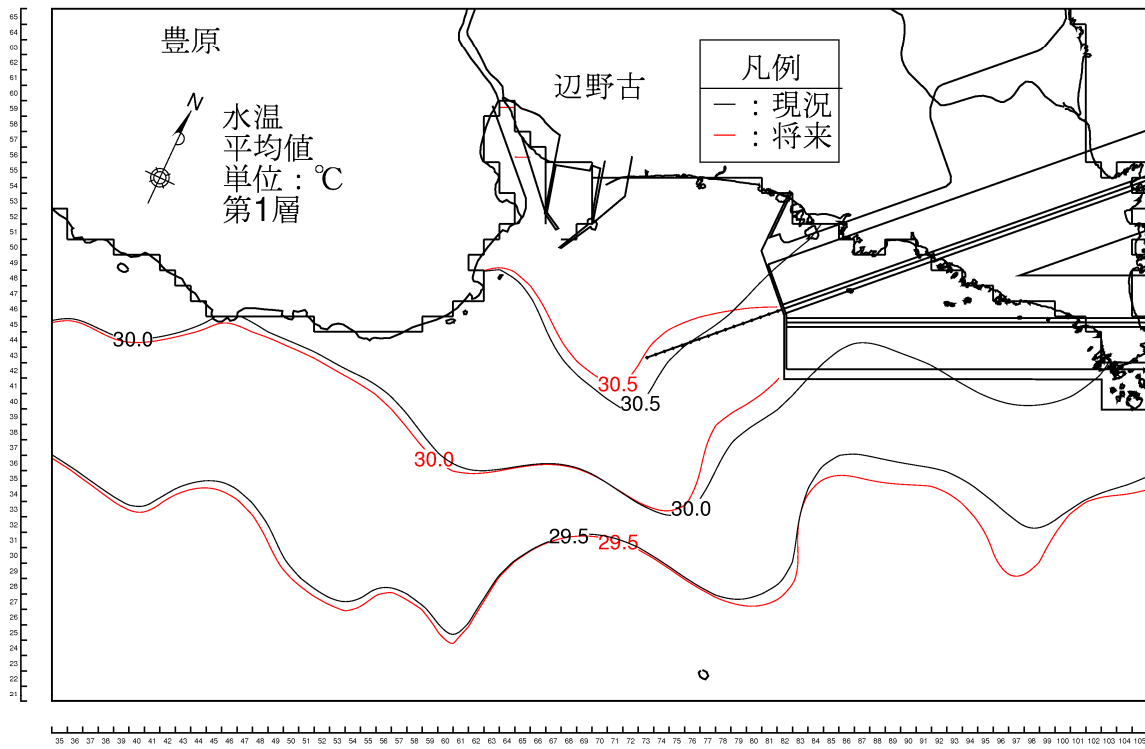


図- 6.9.2.3.59(1) 辺野古川河口周辺における水温と塩分の変化
(夏季、恒流(平均流)、第1層[0~2m])

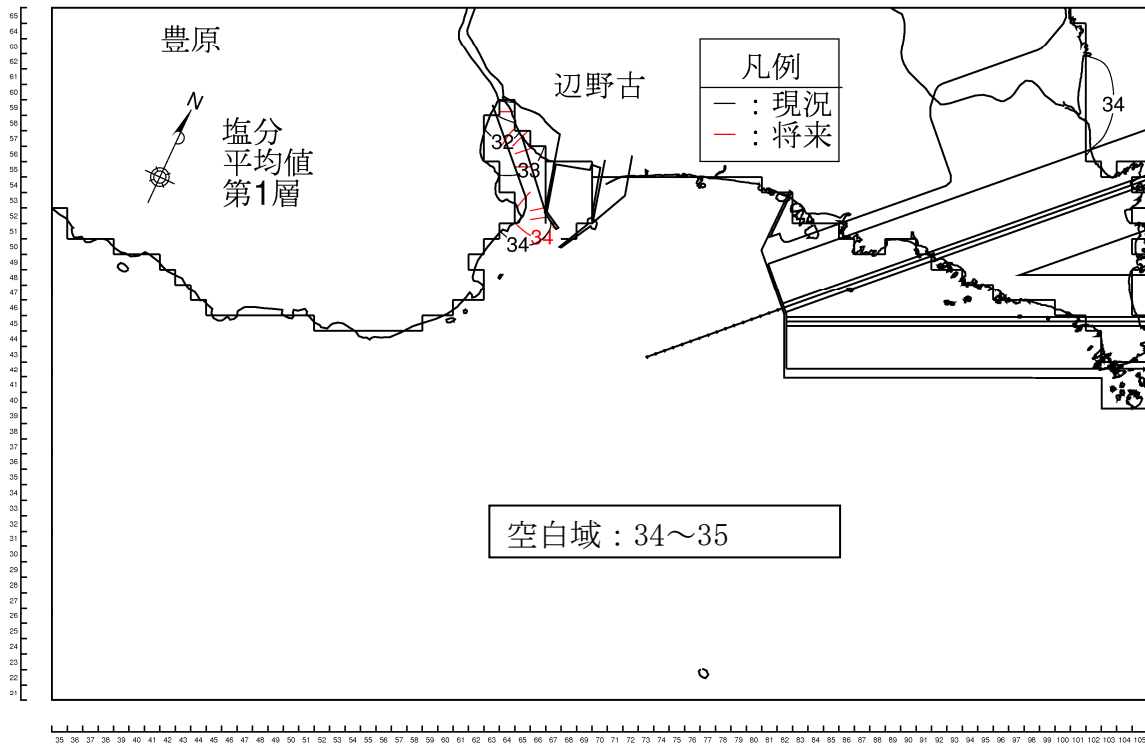
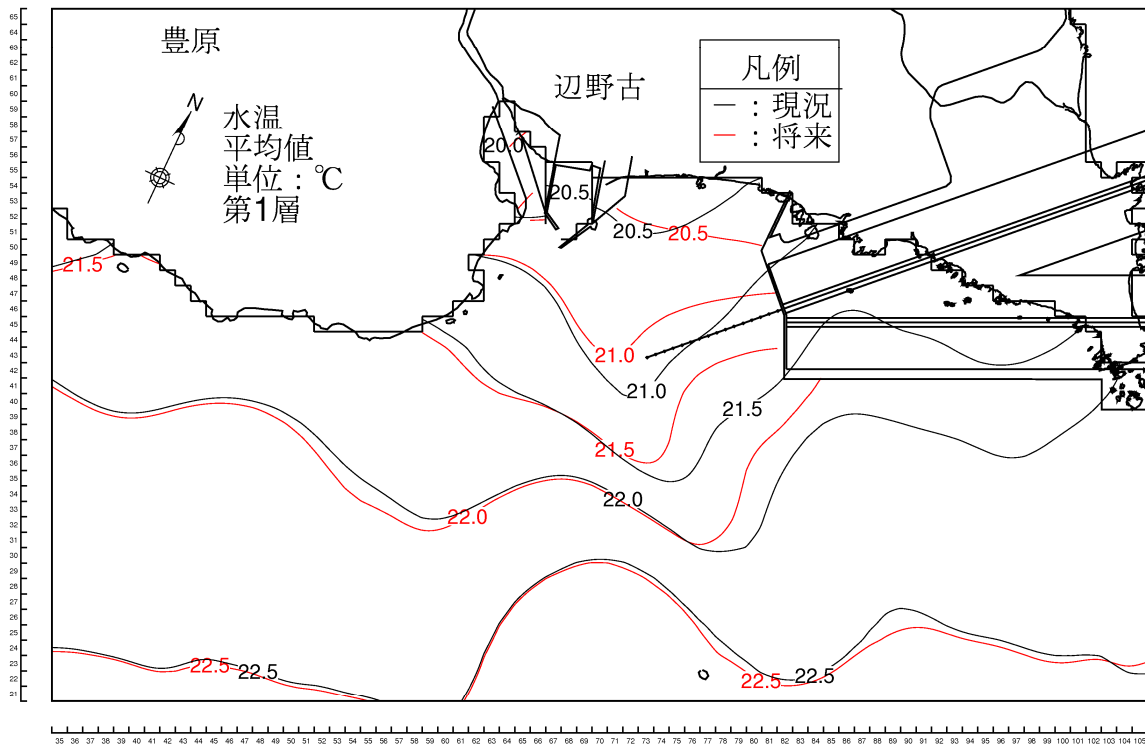


図- 6.9.2.3.59(2) 辺野古川河口周辺における水温と塩分の変化
(冬季、恒流(平均流)、第1層[0~2m])